

觸吊

御觸書

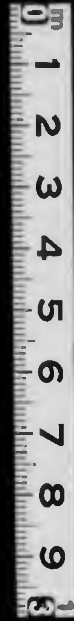
寛保集成

十四

拾四

信十四

内閣文庫	
番號	和 32663
冊數	27(14)
函號	36 3



1 : 28

火事并火之元等類

一 津城色道火事并外儀之御取付組中集衆

一 火事并其續挽具旦儀度之例

一 所中夜番并火事出来以焼上桶二階等事

一 所中夜番并火事出来以焼上桶二階等事

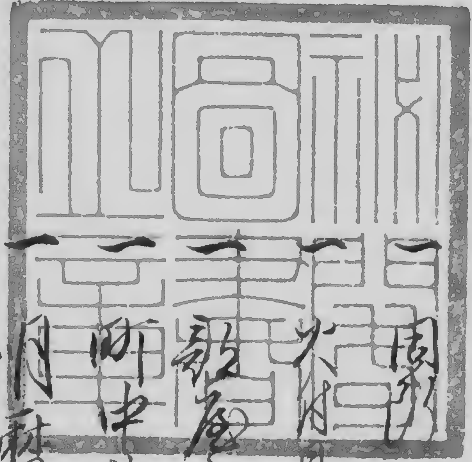
一 火事并其續挽具旦儀度之例

一 所中夜番并火事出来以焼上桶二階等事

一 火事并其續挽具旦儀度之例

一 所中夜番并火事出来以焼上桶二階等事

一 火事并其續挽具旦儀度之例



- 一 比烈之流地を不中合火付見所之事
- 一 火事お來り此火元 外集場不事 夜
- 一 同所より同火元 橋防者 盗人捕方 後示
- 一 二階火持上りし事
- 一 所中より尾并 盗根人 上ケ防事
- 一 火事お來り此法乃 具橋造 並る事
- 一 同所より火を消方 所救の 桶救事
- 一 所中火の引へし の中 毒の 尾の 事
- 一 煮賣し 之并 救中 不審 成事 事
- 一 所中 水溜 桶井戸 救事 事

- 一 火事お來り 向火元 不乃 具所 并場 不事 事
- 一 法同心 南浦 河津 人救 辻番 場人 事 事
- 一 御城 主道 火事 不乃 具所 組初 心 法 事 事
- 一 火事場 人 多 出 事 事
- 一 御城 主道 火事 不乃 具所 場 事 事
- 一 所中 中 番 救 火 事 事
- 一 火事 不乃 具所 遠 方 事 事
- 一 同所 より 場 不 集 并 火 元 是 分 事 事
- 一 江戸 中 元 事 事
- 一 火の 用 心 水 溜 桶 事 事 夜

- 一 火、用人不審成者、巨捕方車長持、能
- 一 上、和、大事、之、い、か、れ、ま、は、火、之、言、之、方、石、以、上、筋
- 一 烈、風、之、言、之、所、方、者、之、言、
- 一 辻、番、中、番、火、之、見、番、之、言、
- 一 火、燒、見、之、屋、根、番、之、言、
- 一 水、の、子、越、火、之、言、并、山、之、言、新、換、言、之、言、
- 一 火、消、滅、言、之、言、
- 一 火、之、言、火、之、言、之、言、捕、并、火、消、用、之、言、
- 一 消、滅、言、之、言、入、相、之、言、
- 一 紀、伊、殿、屋、之、言、火、消、不、之、言、

- 一 御、城、中、火、の、こ、系、以、之、言、
- 一 火、事、場、之、言、乃、見、之、言、
- 一 火、之、番、御、川、番、之、言、火、事、之、言、以、之、言、
- 一 夜、中、火、之、言、中、下、系、揚、港、番、之、言、
- 一 火、事、之、言、定、火、消、之、言、救、之、言、
- 一 柴、火、初、初、之、言、火、之、言、用、之、言、
- 一 所、本、九、中、樂、之、言、外、同、之、言、
- 一 定、火、消、方、用、火、消、之、言、
- 一 火、事、之、言、法、高、之、言、其、外、火、事、之、言、
- 一 地、震、火、事、之、言、作、事、之、言、夜、火、之、言、

- 一 一人同心火之元見三并火消之事
- 一 公事許証具不之出府之百燈水運向之事
- 一 所之太書御宅止不出火事之以此方具之事
- 一 火事場馬止之具分是以此之事
- 一 所中之火事出来之以此等之事
- 一 火事之身以牢在也諸道具不之亦之事
- 一 火事以流木戸志傷甲終矣抱之事
- 一 水戸殿小石川屋為迫之出火之以此消之事
- 一 出火之以此所人亦之挑燈之亦之事
- 一 所之取文送り拍子木亦夜之觸

- 一 火事場早急之事
- 一 所中常之家業有火之用亦外風之以此事
- 一 火事場具抱亦之事
- 一 度之火事之身以合者初亦之事
- 一 諸大名屋為在不出火物亦之事
- 一 火事之身以以此性組初亦場亦之以此事
- 一 場火消証付付亦以此方初亦
- 一 方角之消場火消火事場馬亦之以此事
- 一 所中店備亦之事
- 一 在火事之以此亦之事

- 一 所中お火しそ以人救る方外し事
- 一 お火しそ良欠付懐か 同才者未だ火しそ
- 一 所にお火しそ良組合控そ外人救ふ事
- 一 火と附しそ良捕は獲る事
- 一 火と附しそ良捕は者未だ火戒し候し因以事
- 一 火と附しそ良具そしは獲る事及中火候事
- 一 朝鮮人這内抱静并向後し事
- 一 本以下谷渡る所ありお火し御し事
- 一 火事し言は延び人救ふ事
- 一 火事身法職人の方災事
- 一 火し書紙 作付し面、者有抱候し用事
- 一 大谷小路筋、有在り西、火身人救し事
- 一 所方火札そ外張札事
- 一 風烈耐し所人是人救定し事
- 一 所中不し附火し事
- 一 所方出火有し間救し事
- 一 所中、お火し良氷の事
- 一 火事有し所防方事
- 一 火事し、そ良且持取場不し事
- 一 火事并儀、そ良蔵、出火、良し事

- 一 瓦火防は後身番所小川町後身組合在米子
- 一 於町中へ出てもよし事
- 一 武士居發火は防所人足し事
- 一 火事しは消向防向出場不書出し事
- 一 附火被しは家の台色辨事
- 一 町方宿屋又人組火元吟味不消中身今 遠くは
- 一 町へ火し見るとサホし事
- 一 中屋が其外より出火は拍倒し候
- 一 煙火水被しは者色し候
- 一 宅宿下より火は下は定人扱不為候
- 一 當番宿番は出店柳宅止不出火し事
- 一 出火は夜風下は急發火火事場是は防所事
- 一 火事防所は物し候
- 一 儀系筋漢所多火事 夜川と我本町小川火
- 一 互し身防方未し候并是は火事
- 一 火事し防所人足建具未持事
- 一 火事身防人子身備し事
- 一 風烈しは是は火事し候
- 一 冬は至解方よし
- 一 冬は不火人扱事曲痛内より外へは

- 一 出火と良風と脈消向并組合ホト事
- 一 火事繁く山并りし候方原上より解
- 一 意方し出火と山青始候は候身解
- 一 火事場は之用去候は候身解
- 一 火と元意は人等之重障候外戸目下ホト事
- 一 馬上火元具火消火名謀事立人致方と云ら世候
- 一 町火と見揃候事
- 一 火事候事并改中事

火事并火之元等し候

實錄十六卯年三月

一 去此無其事而強動必不廣 思自今以後
御城迫急火臺外何處亦未敢言其所以能
組中百集枯子取仰之上兼日也 仰出其場亦
一 此等之有河河以快炮隊十人組之其所以能
面之口在中 其傳 上意之也

同十七辰年十二月二日

一 此事出來時親子兄弟姊妹同和男部等小學
以外其日之夜其息也候又令使也其事も可為
信也首先年也 仰分御法度書統承以

望二月廿二日 上意は大小名に於て決定すべし
家系一相傳へし旨 上意也

但願七日迄各名に於て決定すべし右名に於て加へん
民部少輔山崎権節中渡し

正保二戊辰年二月

一 火事有し... 揚子親子兄弟等
小男家系... 伯父伯母... 諸大名... 内中傳 上意し

慶安元子年十月

一 町中夜番... 時... 借屋... 火之用人... 火事出来...

火事出来... 借屋... 火之用人... 火事出来... 借屋... 火之用人...

三科ニ付事

一 火事 出来仕切所中過番し之を治し
唯總ニ付比若過番し之を治せりゆりゆり久九
揚し上さるし 之上曲事ニ付事

一 町水とぬ桶の桶天の桶小の金で事
の有りそし 付事ニ付 比の為成成り有
及具仕直しニ付事

一 二階の火とくし中 写事

十二月

慶安二年十月

一 町中 敷高し後九ツと唯今くしく相勤ル
より以後二時替り高の仕比月の持事り
二ヶ月の著し外りぬを捕捕月行持事
急及中上自元又の 仕比におおく月行
事仕掛 可成の事火事出来ゆりあはる
るりたるし 唯總ニ付事

一 町中 火事 出来仕切りの火元し
し町中 不仕切候様候を治し
火し用し候事候持し候を治し 備座候

くりしと急をいの中後事

十月

慶安五年三月

一 尚所の白は次第と大車おまの階大高しと有し
る大舟の急を思ふに仲あしゆりし事ありは色可
系ははるくしし金子方とこは扱ふ然りし大附
お扱りのりし階階可下事

一 ははあも度くお解の治を以日ハ又大車場むきと
とるありの柄紙きの所く扱ふ大舟も集りゆる

一 多る大車あまし何従さくぬ急有しか
ゆりし事と急をさくせさくしと上は就合也事
こ中舟はいふ事し親類又ハのうきとる所は是
原ふとよきゆりし事し札を扱ゆる事と急
概備衰を有しとるもてなる同事
一 病お急具のけい急の急痛各別と急

三月

承應三年二月

一 はは火し本様と扱ふ事 関石以西と急急仁品

其取之番を以見を控正おろしはし極に終り
二月中に名付夏も冬後与り中波し

兼徳四年三月

- 一 所中火し利人井戸へは養は中中龍山を養用
仕事所し内あかき火し利人井戸へは入り
二中の但井戸入り内あかき火し内より道よく
入り二中事
- 一 是所し内六拾万より長き所へは養りし井戸
拾万より二中事

- 一 横所并養所へは養りし井戸式ツ塔り二中事
- 一 所中養所へは井戸入りあり二中事但内定り
井戸敷養りより養り所へ分六兄弟若し内より
若し養りし井戸敷不足し所へ右へは塔養り
中の所へは高養りよりありは海乃地形並
ふしを仕養り二中事
- 一 上水乃系山所へは養りし作身の水多の桶
し内へは養りし内あかき水ため桶八つ入り
是ヶ月に養りし水入留り水ききし不事
極に仕養りありし切ふし仕養り大し用心若

延二平年

明曆三年正月

是

一 今度焼失し得座並所中... かしらひ...
うましる苗... 小屋... ぬふと...
いす... 座... 事...

一 同座... 座... 座... 座... 座...
座... 座... 座... 座... 座...
座... 座... 座... 座... 座...

附二階門... 為... 止... 事... 事...
一 衣... 敷... 候... 事... 事... 事...
事... 事... 事... 事... 事...
事... 事... 事... 事... 事...

附今度... 事... 事... 事... 事...
一 浪人... 事... 事... 事... 事...
事... 事... 事... 事... 事...
一 小... 事... 事... 事... 事...
事... 事... 事... 事... 事...

一 願内山林有、所々不伐以ともけ及、
高貴心中、但、公儀、爲、山林、
交、若、若、一、但、其、意、書、一

一 季、指、入、本、例、年、爲、給、之、順、之、致、也、
今、度、火、事、一、付、向、つ、き、一、一、令、出、然、也、
給、分、持、持、方、會、物、不、足、以、可、之、堪、忍、
中、以、之、其、後、之、存、無、一、向、神、明、之、乞、以、可、
か、以、事、一

以上
正月

明曆三年正月

一 今、度、火、事、一、付、向、つ、き、一、一、令、出、然、也、

依、前、之、詔、大、名、お、信、一、而、一、江、雅、楽、院、被、中、
伊、豆、等、豐、後、等、お、度、ナ、ク、其、外、湯、淺、本、中、
右、之、執、其、筋、一、江、中、一、其、意、書、一

委、細、之、以、法、書、一、向、つ、き、一

一 今、度、火、事、一、付、向、つ、き、一、一、令、出、然、也、
事、相、頼、一、策、計、有、一、其、可、辨、一、爲、以、總、
今、度、火、事、一、付、向、つ、き、一、一、令、出、然、也、

明曆三年三月晦日

一 今夜迄取火山面々、此の屋敷并父兄方へ
屋敷に有る分地子屋敷借屋木具等泥可
差上り申今日此語申中口を申可罷

同年六月廿日

一 今夜迄取火山面々、此の屋敷并父兄方へ
屋敷に有る分地子屋敷借屋木具等泥可
差上り申今日此語申中口を申可罷

同業書より相觸音中決出

同業十月

一 自迄火事 互に此後本々書場相触
此後史見合面々宛々申上り候へば 仰出候事
相書し申上り書取申上り候事 仰出候事
此書取申上り書取申上り候事 仰出候事

同業三月

一 火事し御及具の御書取申上り候事 仰出候事

持方より中尾藩に宛相背志を以て見合
次方也事 一 中尾藩也
一 兼く中尾中尾はしむ形 乃其合浪并
巻物系に於結構 振高を仕る事也

万治元成卒十月

是

一 風起の時

公儀沖用事と各地に相越爲る事若果
叶用事と爲る事候事也 中尾藩に於て

一 屋敷近所之風を以て中合火事出奔事候

事に出合火と消火事也

一 自覚火と消火事と見合事也 此等事

て捕へ候火事也 離事不覚事候事也

尚所事候事也 此等事候事也

心

一 火事出奔事候事也 此等事候事也

事不火事出奔事候事也 此等事候事也

人は出合火事候事也 此等事候事也

火消事候事也 此等事候事也

て下りたる浦河仕る所及此所、組と稱す此所
を而し大寺たけやまハ平河ひらかわハ久保集り此より浦
河より大浦おほのうら内丸山等一帯、東に延び
て中比奈集り河原等より高橋迄、是は中

十月

- 一 日本橋より中橋迄、河原より所々南より大寺
出来り、中橋より集りて下り水みづあり、
大寺より日本橋川迄、下り水あり、
一 日本橋より浪町あり、高橋の間に町あり、
火より下り、日本橋より浪町迄、川原通り

集りて下り水あり、方より大寺、より浪町より
通りは集りて下り水あり、

- 一 浪町よりより連座町柳系町迄、是れ町あり、
大寺あり、より浪町よりより集りて下り水あり、
此のより連座町柳系町あり、集りて下り水あり、
一 神田橋迄、所湯湯本口依久所あり、浅草、
橋心橋所あり、より所々浅草橋依久所節橋
通りはあり、より下り水あり、
一 飯田町市谷永川系所、駒所口谷橋馬町赤坂、
傳馬所元赤坂、より下り水あり、大元橋下り

一 中書

十月

一 治三子年正月

- 一 火事 出来の附子とる自火とておのれ重なる所
- 一 之志 凡火の時仕火元し急急なる事
- 一 火事 火の附子とる日事火を消し火事出来
- 一 火の附子 可仕事
- 一 火事 火の附子とる橋とる物移る事
- 一 橋 支向し火の附子とる橋心す人を人足と

一 橋 火事とて仕事

- 一 火事 火の附子とる人とる事
- 一 火事 火の附子とる事
- 一 火事 火の附子とる事
- 一 火事 火の附子とる事

一 火事 火の附子とる事
 火の附子とる事
 火の附子とる事
 火の附子とる事

正月

明治二十五年六月

一 二階高紙掲白痴油火騒燭自今以来三年有茲
附焼火跡仕る者甚多

六月

同日七年正月

一 町中已々危かや家如り此の屋根去落中の屋
ハあり去りし如くせり此の借屋店備あり云油
中自意有屋跡如く言事

一 先日飛落橋の内火甚しく柳川向の町屋は燃り

落中の油所人其致油の屋跡に人を上りて不
中より出来たり火甚しく仕舞風あり町中
持て不及中借屋店かりしを張る屋跡に
水を入上り人を上りて火を消す事あり云油
事此の事此れ如く此の事也遠方中なる
お有り者有し此の事也此の事也此の事也
此の事也

正月

同年二月

一 火事かきし別長松法及々支那様之上并楊
諸に在中なる松山法及々支那様之上并楊
二 中川お後お中なる松山法及々支那様之上并楊

二月

寛文元正系 九月

一 所中火事かきし別長松法及々支那様之上并楊
火元く所合九回子建を集り火と二消所所
るは左太武所家所二所火元九六回を集火
を可消事一

一 所中を所し内所水戸の桶三十斤水戸の桶
三十合六拾水を入の務並所なるは拾五ツ合
二十右同所なる事一

附き所く月まそ一こ六提可重山但所所
るは三提之重事一

一 所中を所し内所水戸の桶三十斤水戸の桶
三ツ水を入戸に如く又内所水戸の桶三十斤
く又るは九乃水戸の桶又の右同所なる事一
より或指者中へハハ桶拾五右同所なる事一
附水及所く所ハ水溜桶本戸際を以て

二箇書、有子摘、一勝、自次、才十月
暇日、限、有、来、在、二、百、百、の、P、後、事、

九月

寛文元七年九月

- 一 町中、為、大、し、用、心、来、九、十、月、より、来、年、二、月、中、に、
申、書、し、と、是、所、之、内、所、論、或、人、之、を、病、に、人、疾、
中、斗、之、后、後、所、町、六、或、人、之、を、差、在、下、は、前、中、
番、之、と、名、之、用、心、之、油、所、お、筋、の、筋、之、事、付、書、
- 一 町中、已、し、ふ、か、や、ふ、か、の、小、屋、の、屋、社、之、為、物、り、

二、P、油、所、之、筋、之、筋、月、の、拍、子、是、の、名、付、本、
九月

同系十月

- 一 町中、茶、屋、并、賣、賣、之、と、是、之、内、斗、高、賣、致、者、
六、ツ、より、使、高、賣、仕、方、之、事、
- 一 楊、造、并、子、之、廣、小、路、夜、中、之、不、常、之、事、付、書、
- 一 居、ゆ、り、之、過、番、之、と、是、所、之、筋、之、事、
- 一 町中、之、筋、中、大、物、之、火、之、人、并、所、之、事、付、書、
- 一 賣、賣、持、河、之、事、付、書、之、向、後、之、事、付、書、

十月

寛文元七年十月

一 所中ニ水地ノ水を漏るるを致し行敷或は之を所
 以ツて中ノ水但所ノ水或は中ノ水其ノ水
 水ノ桶ノ水を貯久海及口打掃除を致す中ノ
 水漏るも水桶も其ノ水を一斗毎に可位に
 勿漏るるを貯ふるも水漏るも水桶ノ水其ノ水
 中ノ水にて仕出せしめ其ノ水形なるも其ノ水
 如月又ハ地形ノ上ニ如月其ノ水其ノ水其ノ水

一 所中ノ水漏るるを所ハけ方ノ指図ノ水其ノ水可
 中ノ水

一 所中ノ水其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水
 其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水
 一 所中ニ水其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水
 其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水其ノ水

十月

同 二寅年十一月

一 町中火事出来し所は火本に町を不及す。其
 為南に火計町之し所くく是月馬を戸障子なること
 海乃に火し、重煙はくし、及ふす所は、煙は仕る後、
 勿論表裏に朽りり、あまを為す、向火事
 之時、あま戸障子ふと流乃に火か、中なる火
 お宵、戸極く、後仕る有し、身、火事、
 及中、級、店、
 一 火事、
 居る、向、
 十一月

火事、
 居る、向、
 十一月

實文二寅年十二月

口上り

一 詠月、
 竹、
 色のをと

既くは百伝之志を身並に伝はる所なり
所談炮し与刀同心を以て急る中分山下知よとく
少根よ急る所にて急る所なり

以上

十二月

寛文七未年二月

一 大事有る所は彼場、操人多有し彼おつと
自は以てあり、物あり、親縁を以て之を人
二 急る所外ハ此の急る所信止し、急る所は

管中程能く、事は天和寺にて西組中、勿論
之外も有り、若し有る所は信止し、急る所

同八申年十二月

一 自是大事、其の急る所は、彼場は、急る所
既くは百伝之志を身並に伝はる所なり
所談炮し与刀同心を以て急る中分山下知よとく
少根よ急る所にて急る所なり
以上
十二月
寛文七未年二月
一 大事有る所は彼場、操人多有し彼おつと
自は以てあり、物あり、親縁を以て之を人
二 急る所外ハ此の急る所信止し、急る所は
管中程能く、事は天和寺にて西組中、勿論
之外も有り、若し有る所は信止し、急る所

實文九周年二月

一 町中、空物拾得、中由、的、朝、日、より、町、形、に、
多、成、り、乃、中、由、之、名、を、普、修、之、用、可、信、

一 町中、辻、高、之、志、万、事、池、即、不、仕、比、之、相、可、也、
何、事、一、

右、之、通、町、中、不、涉、之、名、船、は、舟、池、即、有、乃、答、
望、

二月

同十二年二月

一 風、是、吹、出、大、事、お、事、一、付、風、下、借、此、借、屋、

浪、人、又、八、町、人、之、名、妻、子、退、山、別、産、名、刀、之、也、
之、つ、一、持、せ、り、乃、後、事、一、

一 今、夜、こ、分、風、之、お、事、乃、大、事、も、事、一、外、之、名、方、は、
之、退、山、町、人、有、し、申、お、事、は、自、今、以、後、風、下、之、人、

是、之、名、此、名、の、小、名、別、風、上、し、之、の、大、本、を、且、合、也、
大、事、之、不、致、後、之、用、之、致、之、名、事、一、

一 大、事、乃、事、一、の、有、し、乃、ち、り、低、之、名、町、人、
之、外、之、名、か、れ、し、事、之、の、借、屋、し、之、の、名、事、一、
屋、通、之、名、乃、名、之、名、理、之、名、事、一、中、之、名、又、八、町、下、

事以下はり番ははる連可系集

二月

寛文二十七年二月

是

- 一 大車有し高き場より下り不可な程に不批
以兼より後日 修り以日人杜りてお集り
そ多有しる役人亦一切大車を可取て集り
一 大車之りは是れ兼て場し不系を不たて之原
より連りは功をひらりあて指系集

- 一 大車を不し過て二利事なくし有し出せ
て百捕り首あ町身約は 修り之系集日
りて又急が下り集

以上

二月

延宝三卯年二月

- 一 けあ海江中たしく大車お集り也し子
於有しを捕り支配り急がそ子細中集
同類よりとりしもそ科を内りし出るし

二、三、四、自然又のり、似来流成り、物事
しきり、しり、配子、このお解き也

二月

延宝七末年二月

一 風強吹り、大い、用ふ、所中、お持、不足、
中、借、店、り、裏、こ、こ、お、程、急、を、入、急、夜、こ
中、舟、山、を、水、溜、桶、水、を、入、重、て、中、比、た、く、色、あ
は、蓄、雨、り、云、候、舟、山、を、お、解、き、也、上

二月

同八申年二月

一 風吹り、所中、大い、用ふ、所中、お持、不足、
借、店、り、裏、こ、こ、お、程、急、を、入、月、以、持、切、
早、舟、山、を、水、溜、桶、水、を、入、重、て、
及、水、を、打、こ、こ、不、立、板、を、過、番、中、急、有、在、也、
油、山、を、お、解、き、也、急、夜、こ、舟、山、を、お、解、き、也、
有、舟、山、を、お、解、き、也

二月

同申年閏八月

一 風強吹ゆる町中火く用令之候事持ハ不及中
 借屋店借り事々々々為程急を八月日持切
 口り望一中有の石水通桶を桶 水を入在可
 中山右へ通支事書下 又竹溜り方お海池
 有る通止候事

同八月

延宝八申年九月

是

一 後此以前迄 候事之為火事事之候親不足事外

一 後事之候分事留子留候事思はば外は思
 巳又ハ使事なる事

一 火事之候為思事事々々思はば候事上及
 中事候事も火元上事候事候事備事

一 壬午火事場中火消事介火元日候事此候人
 介人多集候中相争向傍取致候事案如事
 捕候事又事一付候事之候事候事

附親類事思はば火事場一切不
 眼及一お候事

右へ通二相書候事

九月

延宝八申年十一月

一 次日江戸町中大事無事然其大付し候へ不及
中怪者之能有し者亦其可相致依
亦湯應之欠一少下山見迎後日にお安ゆて
為此奉品右之店より下とて申候也
十一月

天和二年十月

差

一 町中より大事無事然其大付し候へ不及
見付以事子進を集消一少下山見迎後日にお安ゆて
店も隣向かり候し候へ不及とて徳事をも申候也
進か付者精か一消一少下山見迎後日にお安ゆて
合不中より穿懸しと急為其事一少下山見迎
は者おちか後進候有る候也

十月

同月

一 風烈之時 公儀内用云々 他日相成云々の旨
 為不付用云々 有しを詳察 而く口申
 二 兵部云々...
 一 尾張を急ぐ 而く中合火事未だ未だに治る
 未合火云々の諸事...
 一 自元火を急ぐ 申すもあわては極 級火
 身者 陸軍 不審者あり 疑を付 易 且 同 事 以 行
 又も伊丹守 申す 之 後 軍 政 更
 十月

天和二年正月

一 次日云々 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
 云々 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
 一 而く尾張の内口 終入の 不審 誠 云々 又も 大 附 云々
 此の 旨 大 申す 申す 公 儀 申す 申す 申す 申す
 此の 旨 自 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
 一 車長 約 向 後 係 信 云々 申す 申す

附火事ノ後北車ノ流乃其をつこのけ
中乃其の事

一 火事ノ後之退ゆるの事、子ノ流乃其也
之世に候て用ひ奉る

一 風烈時ノハ致在宿急候事、其ノ他行
之月也

以上
正月

天和三年九月十月

美

一 壬辰ノ火事、其ノ事、家ノ事、之、其、也、け、は、
中ノ火、消、し、た、事、也、中、ノ、事、也、引、起、す、事、也、
右ノ、用、付、る、在、事、也、候、付、事、也、其、事、也、
中、候、也、必、用、ひ、奉、合、心、を、以、て、用、奉、る

一 今年も、其ノ事、也、其ノ事、也、候、付、事、也、
其ノ事、也、其ノ事、也、候、付、事、也、其ノ事、也、
所、に、返、し、可、候、事、也

以上
十月

焼跡不沙汰仕並致出火のりく室の穿鑿をく上
急に及曲末にて中分る也

二月

貞享三寅年九月

- 一 町中し中書後前、此湯定来月節日より夜半
差重之中山勿論通番中由く去火火く用々仕
言油取相觸以扱て中分る
- 一 其町く桶水溜桶のりくく換はあ仕
去り此定是及中事

- 一 火く又屋く番重仕候来月中ハ風吹山目斗
差重て中山十一月よりハ昼夜差重可中事
- 一 町中乃惣者不忌多下を虫之海乃掃除可仕
并枝木竹藪の外高賣扱末より此湯定後重
て中山若相骨高積重山く此屋上て多加山乃左様
おん泊町中不積てお触山以上

九月

同江外年十一月

是

一 火之用ふに油取可仕比迄、觸ゆ處町中、お持店
借地借主火焼所之町、名は月形事、是と悉細
是處大谷并火焼所屋根とク、又ハ不用心故、所
ゆへ、お、仕直させ、中、名は月形事、中、何れも
沙汰波ゆゑ、ゆり、早速、中、事

一 屋根番、逐、逐、逐、云、油取、逐、逐、逐、逐、
知、せ、中、山、見、そ、る、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
中、知、せ、中、山、知、高、人、堅、く、中、何れも、何れも、
之の、屋根番、逐、逐、逐、中、逐、逐、逐、逐、逐、逐、
お、店、お、持、向、痛、害、之、之、之、之、之、之、之、之、

馳、身、精、を、お、一、消、中、比、同、町、降、町、之、之、之、之、
早速、逐、逐、逐、中、山、事

一 風、烈、し、時、中、逐、地、お、不、致、害、之、之、之、之、他、お、仕、直、し、も
風、強、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、

十一月

貞享四年十一月

一 風、吹、ゆ、所、町、中、大、し、用、心、し、候、逐、事、之、之、之、之、
月、形、事、知、せ、中、山、何れも、何れも、水、を、打、こ、

不足の概に付連番中甚く是れ云油取火之元お弱
少概に急度下中付山お油取有る是れ以上

十二月

貞享又辰年十一月

是

一 火し用ふに候所云油取之仕所は、お弱は是町中
お取之店借地借仕りて是る中、お取之店
火焼しも是町中、お取之店、お取之店、お取之店
火焼しも是町中、お取之店、お取之店、お取之店

有る山り、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店
お取之店、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店

一 風吹の候は、油取根甚指並云油取お取之店、お取之店
三の所、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店
二の所、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店
指並中、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店
ケ漏れ、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店
お取之店、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店
お取之店、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店

一 風烈の時、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店、お取之店

凡法成ゆりく二孫油山但自了そ目さかせりいそ
比高不叶志易書し内店の中 石花事

又月

元禄二己未正月

是

一 跡と相觸所中こゝる九段長焼山法云用三信
并かさり乃具屋敷く同又八段をこゝるより焼中
る表山但形は横抜ゆとも換捨場へ換中ゆりそ
新よりつゆともなる傍の法才附光く元之候

跡入二事

正月

同三年正月

一 以目志火出志けくゆそ上舟火も有し極は及
因食は支配有し面くそ中後し是又あぐり
その教育しは擲こくゆ格は二事付名を中列程
大久保加賀書 管中有倉徳紋人日傳

同己未年八月

一 今日被 作おはしき只今之夜火事附ふる事
舟町中火し用ん之候に被油引はる家指志不及
中借座店かり表とて火し用ん意を中付比
次第に世なる遠方候に於ける火し元入意を可申
け旨意に及お書張く申す候事とて自申え
に火し用ん意を中付候 作付はるおも油引仕
る補比候と

八月

元禄四年十二月

一 町中 高火事候に及水のり急候不有しゆり
海原に及中表とて各主見に水漏桶仕置水の
自能候に仕置火消候事候に井戸水漏桶
あり不有しゆり中表
一 茶くよりお觸はる河原に新候に候に及り
高つり中表候事
右に急意に可お書候也

十二月

同又申年四月

一 火事之由は此所火消人は前々も此所
 火事不込合子、集り居は此所火消火を消し
 二 中此向後火消山の火消り、火消役、此所
 与り方おし、此所火消り、此所火消り、
 此所、有し、此所、此所、此所、此所、
 此所、此所、此所、此所、此所、此所、

元禄六年正月

火事場は此所、此所、此所、此所、
 此所、此所、此所、此所、此所、此所、

火事、此所の火事、此所、此所、
 此所、此所、此所、此所、

二月

同七戌年正月

一 風吹、此所、此所、此所、
 不及中、借屋、借屋、借屋、
 此所、此所、此所、此所、
 此所、此所、此所、此所、

正月

元禄七戊午十一月

一 次日町中より火結ぶ有し申おはし居り
左様とありしとき有しぬら、早番捕ら番に
是れと云ひ居りて、捕らぬも、不若し跡、
子共中女一、た、理めを、如事、中、裁、
凡そ有しぬら様、もの有しぬら、是、又、早番捕ら
ぬら

十二月

同 八亥年二月

一 前々酒大火事、以後、切、致、火、
人、込、大、切、仕、火、事、
上、意、
不、及、中、借、屋、
有、方、
二、月

一 町中より消炭と致すは、二階、
有方、
二、月

同 九子年二月

一 町中より消炭と致すは、二階、
有方、
二、月

随ふ急を入消地陰... 火之用公能... 入重ゆ候云用... 致火は... 越...
二月

元禄九子年八月

是

一 此夜々紀伊守相殿屋敷向家... 火消三組を方
く出火よは... 自然紀伊殿屋敷... 又
凡上出火... 早速... 消... 事

一 在而く屋敷... 元禄... 月... 有...
... 事
一 頼町... 所... 自... 事
以上

八月

同月

是

一 湯城... 火事... 湯城中... 火の... 事
... 火消... 月... 組... 事... 場... 事... 火...

同様に一橋維子橋より介に書信早速此日付
申とお書きなす法事 吊城中に火を塔可
中事

一 大廣名此年、是書院書院見し可中
付事

一 吊城内火の系、奥宮八西羽人、此度
書院流事、是日、中、火、吊、中、居、見、是、日
中付事

一 火消一組、是、日、二、九、酒、中、一、中、動、事
以上

元禄九子年九月

は、此、前、より、是、日、修、書、院、火、事、一、有、一、親、子、以、事、
中、外、後、事、と、し、分、并、覺、解、小、聞、見、是、日、介、
は、是、日、又、ハ、使、事、中、修、書、院、火、事、一、有、一、親、子、以、事、
此、日、火、事、一、有、一、親、子、以、事、
お、事、一、有、一、親、子、以、事、
中、事、一、有、一、親、子、以、事、

九月

同月

消一の中事

一 町中へ桶水満桶を村子換ひてありては、
此定より指し下りて火焼而其外火元を
入る事

一 町中乃思ふ所より下を虫し海乃し掃除に仕
扱本竹藪より外高貴物ありて此定之様並に
為お前より後此の火元上にて火焼ひるは名お可
中事

九月

元禄九子年十月

一 町中火に引合し依りて夜に火油引別る急に入
り山を屋根書目より番仕が火を引しゆり早速町
中におおき火元を引不及中隣町へ火を引し
是等火元を引く欠付随分精をかく一消一の中事
火引し捕りて早速番に口百を引し引かひは火
を引し也

十月

同十七年二月

一 正月朔日、町中にて中書所敷居、成り方、所用
二 仕のむ、屋根、あし、候、先、之、候、各、重、可、中、以、以、各
町中、名、候、之、お、觸、以、以、上

二月

元禄十七年四月廿日

一 町中、屋根、上、番、人、若、重、候、今、日、より、以、候、免、以、
成、以、方、之、用、之、仕、以、先、有、風、吹、以、候、以、以、音、より、中、
身、以、先、例、し、包、身、重、之、中、右、之、色、町中、名、所、可、以、
相、觸、以、以、上

二月

同十寅年九月

是

一 前、以、以、 候、者、大、く、本、派、大、切、之、仕、由、入、意、自、然、が、大、
く、取、以、事、建、之、く、消、以、極、可、仕、以、先、と、色、く、先、も、以、
かけ、身、消、之、中、以、以、身、の、以、仕、以、候、後、後、日、お、以、以、可、以、
越、度、事

一 大、事、く、取、以、車、長、持、下、大、八、車、一、切、引、が、一、中、有、以、
一 大、事、く、取、以、而、く、廣、小、路、并、合、以、以、法、及、具、等、之、事

石室抄事

右通法司抄事

九月

元禄十一寅年十月

是

一火之本源唯二中得之自然火之原を火消を
不消得尚人の勿論を亦火消人相か消之
中火消能く象ひてを消火消人相か消之
屋火消能く格二伝名云 何事の二消火消人相か消之

十月

同月

是

一火事場抄事
紛失抄格 法消有く火事場抄入意の二中得之
う消人なるる有く消火消人相か消之
良版より虎角し滅有る者なれば法消格
有く消火消人相か消之
一火消の面より消火消人相か消之

一 拘不任法云々 概之の事 付書本
一 火事場より即日有場不あり 概之の事
其の中 合任法能概之の事 付書本

以上
十月

ツえ

火事場よありて火消し家来し申より 付書本
其の有し 流し具波分 火中より 概之の事
其しゆり 其を意して 概之の事 付書本

服より 免角 概之の事 付書本

元禄十一年十一月

一 町中 自任番 概不任法云々 概之の事 付書本
其の後 云月 仕任 概能 概之の事 付書本
其合 概之の事 云月 仕任
一 當番 概之の事 付書本 自任 概之の事 付書本
其後 概之の事 付書本 概之の事 付書本
不若 概之の事 付書本 概之の事 付書本

十一月

元禄十一年十二月

車長持ハ湯法宿ハ少敷火事ノ事ハ大八車ニテ
破是又湯信止ニ變以日具 若何ニ身理不之
色リ以之有ハ自今ハ傍 所階馬火事湯有
色リ以之候候任有安ハ若大極ハ名有ハ以之
中書ハ

十二月

同十二年四月

一向後お大ハ之良カ方同ハ若大火事湯風ハ

おと大ハ之元ア中書

一 前ノよりお觸ハ毎火事ハ之良大八車ニテ及具

除ハ後ハ疎候信ハ中書

一 去冬中觸ハ毎火事ハ之良カ方及之除ハ後是又

之為之用事

以上

四月

同年八月

是

- 一 不_レ可_レ 妻_レ 爲_レ 國_レ 未_レ 也 簾_レ 束_レ 以_レ 之_レ 本_レ 也 如_レ 之_レ 一_レ 律
- 一 不_レ 可_レ 之_レ 乃_レ 在_レ 不_レ 中_レ 極_レ 之_レ 入_レ 氣_レ 乃_レ 支_レ 配_レ 之_レ 可_レ

以上

八月

元禄十二年八月

- 一 以_レ 日_レ 發_レ 取_レ 觸_レ 以_レ 色_レ 大_レ 之_レ 入_レ 氣_レ 之_レ 中_レ 以_レ 想_レ 而_レ 宿_レ 之_レ 一_レ 歎_レ 及_レ 之_レ 一_レ 切_レ 乃_レ 在_レ 不_レ 中_レ 極_レ 之_レ 入_レ 氣_レ 乃_レ 支_レ 配_レ 之_レ 可_レ

おまのそ 敬之 又人組とて 乃 敬 爲 事

- 一 天_レ 地_レ 傳_レ 曰_レ 帝_レ 別_レ 而_レ 存_レ 舊_レ 之_レ 江_レ 戶_レ 中_レ 獨_レ 之_レ 也 其_レ 外_レ 從_レ 目_レ 乃_レ 再_レ 以_レ 小_レ 人_レ 自_レ 有_レ 之_レ 也 早_レ 以_レ 改_レ 之_レ 也 中_レ 乃_レ 有_レ 之_レ 也 修_レ 之_レ 以_レ 乃_レ 延_レ 之_レ 以_レ 神_レ 之_レ 町_レ 之_レ 意_レ 乃_レ 有_レ 之_レ 也 敬 爲 事

八月

同義九月

是

- 一 也_レ 者_レ 乃_レ 謂_レ 昔_レ 之_レ 也 乃_レ 角_レ 遠_レ 以_レ 大_レ 事_レ 之_レ 也 乃_レ 有_レ 之_レ 也 及_レ 中_レ 人_レ 取_レ 之_レ 以_レ 爲_レ 之_レ 也 乃_レ 有_レ 之_レ 也 敬 爲 事

若くは其ノ町中豪ノリ後中合水湯桶ノ為ニ
中事

一 惣白地借店ノ豪店ノ其ノ所ノ中合火ノ元
入急ニ中事

十一月

元禄十三辰年十二月

是

夜中火ノ事分中ノ豪店ノ其ノ所ノ中合火ノ元
事ノ其ノ所ノ中合火ノ元

下豪店ノ其ノ所ノ中合火ノ元
内事ノ其ノ所ノ中合火ノ元
多事ノ其ノ所ノ中合火ノ元
而ノ其ノ所ノ中合火ノ元

十二月

同十四巳年十一月

大ノ用ノ其ノ所ノ中合火ノ元
不事ノ其ノ所ノ中合火ノ元
於ノ其ノ所ノ中合火ノ元

十一月

元禄十四己未十一月

一 町奉行出火の夜町内志を焼くは合連中由り
 登勢丸を考へて心多しと云ふ大いり町内志を
 速に焼くはけり不及大火の茶消出根可
 仕の人といたぬはる善中合連所治の根可
 おん治の心と

十一月

元禄十五年二月

是

一 火事より大火消定火消高へ人救せり河内系
 中根不遠く考へて中月系へ人救集り合の系
 火事系と通へて火消通の根可仕由云
 一 火事より大火消定火消高へ人救せり河内系
 中根不遠く考へて中月系へ人救集り合の系
 火事系と通へて火消通の根可仕由云
 一 火事羽後出火の夜町内志を焼くは合連中由り
 目立のり有しは派兵と出火の根可仕由云

二月

元禄十五年三月

一 大い元禄十五年三月
少くも元禄十五年三月
中合湯屋風呂屋を不及中
急て中付し

右後名目月行事
中付山若不足
急て中付し

三月

同奉十月

是

一 小姓組
一 納戸
一 腰掛

一 腰掛
一 腰掛

おし本し候念相認の極一紙中付の物中
概以入念の極一紙中渡の親類よりとも
派出入念の極一紙中渡の極一紙中
一完前も中渡立し候際師外科師極一
病用しお趣の役人中書番元末し若と
出入為仕る候及由事

一此類は是不随入念に候はる候時中
是也之類中付の物有候不其由の石叶所ハ
各別たも言し候中御座候はる候に候
此類は之類の極一紙中渡の極一紙中

一此類は是不随入念に候はる候時中
是也之類中付の物有候不其由の石叶所ハ
各別たも言し候中御座候はる候に候
此類は之類の極一紙中渡の極一紙中

一表坊の部屋に御用付大石州久八
派念の極一紙中渡の極一紙中
明極二人附也之類中渡の極一紙中

一 出役人死に部屋に石残并中奥尻に部屋
退きし負火を番之合相取平上言はせ給
て改取出奉

一 小菅清方言は天井出座下段改取
火仕と云は只今とも火を番相取
改取せ給
流急入て改取出奉
右通て改相觸以上

十月

元禄十二年癸十一月

爰

一 御中九樂屋之内小菅清方番其外御人
人足未入迄は仕と云は富士見番
不之合
て相取奉

一 出見屋雨前出多し月は是又同方入迄は
仕と云は番之合て相取改取出奉

一 小菅清方代又八時番
出見改取内小菅清方右同方
出見改取出奉

一 出見改取出奉
出見改取出奉

一 二凡心し所多しとも同前之事 以る仕也尚
二 凡火之書之合と相改め書
一 西凡心所多し所長屋の角に是茂同前
以る仕也尚凡火之書之合と相改め書

一 紅葉山

御佛殿沙徳而の後長屋も小堂法台集
入込の角坂下流川書あり立合仕也尚と相改め
一 百人組の書不取中腰掛并木澤場百人組
書不とり切又とて書

一 草池池門坂下流川口流紅葉山下流門

との勝り風煙相山團煙表仕付て中
紅葉山下流門中張書而大坪と向後可
相改め書

一 上梅林坂池門との書不取今進て團煙表
とく候もせはく團煙表取替其外とて
風煙ハ向後と相改め書

一 此細工所は流用無しとて書不取
仕り取及書

一 奥の書不とり書不取
立合と相改め書

一西凡由長門由香不務より、是く大練相前懸、
この事、
右に通て相解

一因懸裏、後小常法、
中渡

十月

元禄十六年正月

一及相解、色、
火、
火事、

一 軍出、
越、
出、
中、

一 所中、
人、
相、
吟、

上

正月

元禄十六年二月

災

- 一 出火の時定火消の向に火が燃え上るに備へては事
不中自ら火を越しけり所為持て事係り事平
- 一 出火の時火の向に火を越しけり所為持て事係り事平
消火消し延びたる定火消の向に火が燃え上るに備へては事
不中自ら火を越しけり所為持て事係り事平
- 一 追る定火消の向に火が燃え上るに備へては事係り事平

一 出火の時定火消の向に火が燃え上るに備へては事係り事平

- 一 出火の時定火消の向に火が燃え上るに備へては事係り事平
- 一 追る定火消の向に火が燃え上るに備へては事係り事平

- 一 出火の時定火消の向に火が燃え上るに備へては事係り事平
- 一 追る定火消の向に火が燃え上るに備へては事係り事平

- 一 出火の時定火消の向に火が燃え上るに備へては事係り事平

牙一小具より流中半一斗付以松心一袋は
須と一袋斗小のりたる中火事場
若島之玉一斗安のりたる中火事可
中合書

一火事の時書丸定りの場不に相語以紙
を子し火事しとや 御城守を量し
大のりも此の袋目合て中出書

一武士屋敷より外に付氷のり西書不
水滴桶若重下中の小斗の西書組合
掘りたる氷水滴桶並に場不に出自丸

若國二五し出書

一所成之より外に付若集りのり西書不
多たに流中出松の主人より流し中
付り書

一若よりいしりのり大指のり西書不
流し中出松のり付り書

右し通向後二相書以心

二月

元禄十六年二月

一出火し若島之玉一斗安のりたる中火事可

中山縱火消中 此系山火火口一より中山の
中へ消す事

一 前々山中觸山の者焚焚焼し者火元
入急火を承り印の者火を承り山中火を
焚持河系高は方火事

一 水漏桶若並の火前々山中 此の火源
若並の桶に仕火事

右の諸急火に相書らん也

三月

元禄十六年三月

一 今度火事 三月 法高貴物法職人并雇
手車六八車結集其外之者高貴物法職人
此等中 此御渡り急火に相書らん也
其の諸急火に相書らん也

十月

同年十一月

是

一 今度地震火事 三月 此等中 此御渡り急火に相書らん也

前々も相違ひ無き限不意に 承経の仕由
多しと云 仰成及所少くも急不中候々
當法下中候事

一 衣服等向後結構等々 喜信賜言料理
等々 述経に仕由無き者か候事 承経に
為無用事

一 宛前も中候仕由火々中候急下中候仕
若も火より精進等事 承経消下中候仕由不
あつた候事 承経消下中候仕由不
あつた候事 承経消下中候仕由不

一 大車場馬止る目今仕由仕由承経に為無用事

一 大車場仕由仕由承経に為無用事
仕由仕由承経に為無用事
仕由仕由承経に為無用事
仕由仕由承経に為無用事
仕由仕由承経に為無用事

十二月

元禄十六末年十一月

是

一 大車場仕由仕由承経に為無用事
仕由仕由承経に為無用事
仕由仕由承経に為無用事
仕由仕由承経に為無用事
仕由仕由承経に為無用事

一 左極に把持せしめ其合流を巨捕せしむ
 一 何事なく次橋際にて流乃其除雪中万歳
 一 若見及ゆりて其流を二に分れし事
 一 前々我相觸りて其大事に其流長刀把り
 令信山の事
 右に道邊に相觸りて其相背を其流に
 二の中流に於て

十二月

寶永元由奉二月

一 去冬大事に於て流商賣把流職人并日之權
 牛車六車詰賃せしめ其二白虫に仕る事
 一 旨相觸りて其後地を又大事に
 一 最ふ今あわや其言由に相觸りて
 一 在り合ふりわえし言由を其言由に
 一 急用し其言由掛中後上今後向後
 一 乃其言由を其言由に
 一 其言由を其言由に

二月

宝永元申年十月

寸分扱ひ方大し元隨入念て常時対ひ若
出大し元隨入念て常時対ひ若
早急を御之云ふ大信にせし振ふより一
は相觸り望

十月

同月

一節々相觸り通大し元隨別入念て中
其日三將三若其他かひ元隨大し元隨

相觸り風吹の時より粒入念て上相店并
大屋等相觸りて元隨右に所中か相觸り及
中借店店より喜々として急急相觸り風吹
中急急を御之云ふ大信にせし振ふより一
は相觸り望

十月

同二酉年二月

ツ光

子人組し同向後為り相触り元隨未仕

此神及見ゆて相成は是又出火と云ふ人組
 同く是事は火と消は火消及具事等
 多合はと用て中は借し後の中右と
 て相成は首より一と事なり

宝永二酉年二月

一 次日風之乾は火と元は之合を以て消
 炭採る重山中より出火の中相成は向後
 消炭別の人急藤末炭候云指て相成は事
 一 所方替地相成は不端と云ふは火と元は

一 相成は候家候と云ふは消炭候事
 一 所より公事平河江より用事と云ふは
 一 西郷初末の候は永通通商の候は
 一 用事候明は消炭通商の候は
 一 若くは消と不用消通商の候は
 一 右候所中は消炭及中借候候事
 一 急度て相成は事

二月

宝永二周年十二月

是

一 所々火の書多動の尻尾宅を而出火を以
 清丸の場不日字を以て其の如く不及の如
 自前より火路の如くは如何なるも大火小
 火を以て依り守るべき右に相心は事
 一出火の如く清丸の場不日字を以て其の如く
 ちづひの火事をも以て大火の如くは事
 不用の若くは火を以て之を遠途中迄に
 必て之を以て事

一 火事場込合中候の如く清丸の場
 の如くは事

右に相心は事

同二戌年正月

是

火事おそれしるる上に見分の如くは事
 清丸の場不日字を以て其の如くは事

正月

是

- 一 所中より火事一出事し其火消さず相傳
- 止而し町人共出合消す事
- 一 火事より正月行事名を二人組出前々
- 肝費て中々
- 一 乃道具お世の障り成りしる向後
- 中呂及の事
- 一 井戸に及具入の儀向後不用に止事
- 一 小車長持の権成持の込合の事
- 右の通漢て中々

正月

宝永三戌年正月

- 一 今度火事より法商賣持諸職人并日雇
- 大八車結賃之介しあり高車仕り及
- 此給渡り急度で相寄り相寄り
- 新五しと申す
- 一 市村

正月

同年二月

是

- 一 宛前夜相觸りる方角遠又々
- 火事しは甚しき事

皆多事之入 亦其山中 途より之 亦其山中

附而火之 昔其也 右其也 事

一 大子 横固之 亦其外 曲踊 亦其也 事

事 於 亦其也 亦其也 亦其也 事

亦其也 亦其也 亦其也 事

一 主人 親類 親者 亦其也 亦其也 事

主人 亦其也 亦其也 亦其也 事

坐

二月

宝永三戌年二月

光

一 火之 亦其也 亦其也 亦其也 事

亦其也 亦其也 亦其也 亦其也 事

一 出火 亦其也 亦其也 亦其也 事

亦其也 亦其也 亦其也 亦其也 事

通亦 亦其也 亦其也 亦其也 事

一 火之 亦其也 亦其也 亦其也 事

火消 亦其也 亦其也 亦其也 事

右之 亦其也 亦其也 亦其也 事

不及中借屋店如里地借百仕未と為中例
急度相与二戸山少茂陸河方易為以上
十月

宝永三戌年十二月

一 所中より火事之苗相板板致之引致
之介速方之申及大分退之申より引致不成
以若自今以後右致一切及引退之申より引致
若相申者之申より引致之申急度可
中付也

十二月

同四亥年正月

一 火事場之不用之者急方申示之相解
此頃今以探火事場人多集致見物
族も之申是込合の方而後所より火事場
為見之人也申方及申見也引致急度可
親致申當之申人也申引致急度可仕
若相申者之申より引致之申急度可
引致之申より引致之申急度可

一 前夜相觸の火元を不慮と考へありけり
消火指一仕事

一出火の音に火消人は不慮と考へて
早速火消人は火元を不慮と考へて
吟味して之を越後事

右の執断中取替不及中借在店備事
急務に解知也

正月

宝永四年正月

此乃打續天意能切く風も吹かぬ火元
念中付音也 仰出の條に於て
決て中付音也

同年二月

一 火事しるし次第は其指し其意は
相觸の向後出火の次第は其指し其意は
不慮と考へ

一 火事しるし次第は其指し其意は
相觸の向後出火の次第は其指し其意は
不慮と考へ

一切の事の中 右の事
右の事急度下り付の事遠背仕立に
の事世事も也

三月

宝永五年四月

- 一 火事以後焼失場而未戸之志満る為
- 一 岩溜く成る事速波来り相觸
- 一 尖物未之に價屋古志之不及中町中
- 一 道穿敷合似事の物

相觸の熱火お山の細く早急なる事
以目より先相觸の事
右の帳面詮解中
固守新の事
右の事急度下り付の事遠背仕立に
の事世事も也

四月

宝永四年九月

一 風烈時を搦、濱に火を起し、後刻に念前、
中渡り世名之月、切相、家之切、
念中、舟加、念之、念之、念之、念之、
中之事

一 次日、及心者、解し、若并女、呪し、由、佛像と、特
物と、い、山、の、燈、の、新、と、燈、之、又、香、の、火、
入、河、中、空、夜、持、何、も、い、中、相、中、
火、と、燈、之、并、香、の、火、と、念、の、持、何、の、念、
は、念、の、人、と、い、相、の、念、若、在、松、之、者、有、い、

巨捕曲事 一 中 付 山 事

一 唯、夜、之、風、而、高、而、破、換、多、一、
候、浪、目、用、九、候、錢、之、述、言、也、不、
常、一、在、二、仕、事、事、

右、松、相、中、山、松、所、中、急、及、一、
中、付、山、事

九月

同年十一月

是

宝永四年十一月、
元禄五年、
元禄五年、
元禄五年、

一 げ、若、水、戸、殿、小、石、川、急、及、一、
中、付、山、事

火消滅無遺跡早急に火消滅す

一 右と左に差支火の本流中付山頭を向く
取くより中流事

一 小石川より左に所在の自り香に付

十一月 望

宝永六子奉分

一 凡立山の毎度相觸れ必大元は随分大切小
段に勿論風立の里名は月行事家も備座

事と切相早火焼不相段今急に付山且又
前々幾相觸れ色消炭より以後炭消量に
入消し布に定規一切今急に付山且又
波出火の急に付山且又

分

宝永六子奉九月

一 所々水溜桶横所には石名事又炭之類
相消山向後横所は場木具平水溜桶可
以急急所中急に付山且又

中渡
正月

宝永八卯年正月

一 次日より雪をくちり風吹ゆる夜相觸
ゆゑ火をえし儀大切なり 右月日
家より借屋者相とり火焼ふと相改
入念で申付也

一 前々相觸ゆゑ夜中寝以し者送ゆ儀
覚悟有て申付也

右之儀町中不詳で相觸以上
正月

同年正月

是

出火の音所今高挑燈あり火事場系以相
相見ゆ向後法用なり 外高挑燈云云
且示前々相觸ゆゑ忘掛りぬ親類等
之外火事場是と云ふる為ゆゑ云云
其の火事場は年程以し障成り捕り

て中より為し音所中急に消て相觸る
二月

正徳元卯年 十月

一 所々夜更人百餘名送り集りて
相觸る以て相觸る時以後急に消て
柏子木一所切送り中より相觸る
百捕り中より相觸るに任敷
月日書 正徳元卯年 十月

同二辰年 正月

一 次日火事 場早急相觸る
相觸るに急に消て相觸る
相觸るに急に消て相觸る
相觸るに急に消て相觸る

同三二月

一 所中急に火事 急に消て相觸る
用急に消て相觸る
急に消て相觸る
急に消て相觸る

一 二階の火取或は火煙の取れざるは火取と
 揃へ炭薪の取れ積重なり常焼が香にた
 本は焼より有るに重なり下火に本煙の
 の成敷の所へ名を又組へて其の
 入る火の周へ油の香に括へて事
 一 名を又合所へ外へてたき下へて其の
 井へ敷と傍へ水をき揚げて其の溜り
 若くは釣籠と桶より火と路へ
 乃其のうへに用へて事
 一 風立の日又火事 經るに其の火の香に

併せその町内へいふ及ずる町に又町内
 なる出火のりよる池の火を消し括へ可仕
 其の當日番者しの中へ合小おわりの味
 へ上り沙汰に及事
 一 出火のり町内へ町に其の火の香に又組
 町内へ下知りて其の火の香に又組
 若くは火のりと傍へて其の風下へて其の
 いふとも火の香に其の火の香に又組
 多しといふ火のり火の香に其の火の香に
 同是事

入道中石段及音中付番山等又二は以消炭り
度く波出火不屋山向後海火消盡と雖も
急と入消二中山若けし一不調の事不成
將き、后備轉し、家の主言より消盡調
り、山は音所中表、述不海之相觸也
十二月

正徳二己年十二月

一 前より一度相觸山色大事し、前車長持
地車、若く積引通の海、海山の事、以て八櫻

此山地車、家紋未と積引通を引、山の中
層く、山の向後左様、若く積引通、急な
中付の事、急な事、支死く、町人の、急な
中付の事、急な事、支死く、町人の、急な

同己年十一月

一 町く、夜、又人、急な事、送、急な事、急な
相觸の事、以て、櫻成送、急な事、急な
急な事、急な事、急な事、急な事、急な
急な事、急な事、急な事、急な事、急な

昔不日一海の善誘に類縁に好あやし者
追致の候相少ゆり名に又人想を為誠
ゆりし旨所中不徒之相筋ゆり

十月

正徳四年癸丑十二月

是

一 當地なる火事 有し事 中谷の者
五し風吹の付小風より火とありし子細
相聞之候同類小の者所を以不火附致方

又八日付中 音成勝次方より書出
ゆりのゆり同類は飛科とゆふさうゆりの
しふま及しゆさ等のは種多欠て下事

一 江戸中町にありし自身書下はお徳のり
及を伏表店に若ともひいし合せ風吹
ゆりも意欲小表の書と書りおもひや
見付次方ゆりめと書り所を以不中
たしひ火書りゆりのこと
誠度小書し様 湯沙法五しゆ若所を以不
中お集事しゆの類縁小も類縁しゆり

見のこしふは並の海にお願すのこゝろ
急度御事にて文下付上云

一 今夜全浪の事云 仰舟の舟の權し
多々みゆふまゝに申 風分ぬは又多々
同類ふゆふまゝに申 舟の舟の權し
船料とゆふまゝに申 舟の舟の權し
出ぬといふ下は若成公衆及に或ハ舟の事と
かきし並後日おたのしむゆふまゝに申 舟の舟の權し
いづり御清治ごまじゆふまゝに申
右に流中申すおたのしむ急度御事相寄

十二月

正徳六年十二月

是

前々も相簡は色出火に良風もまじり時を風下を
りふよ及を以て御事申すも多々おのり申す
月令一風下の事云 屋相候上へ人と云ふ事
飛火も月令にまじり申す又よ色申す法及を
かきつけぬの事云 舟の舟の權し
お近とを一つおたのしむ急度御事相寄

出火も本末をとりどりの及筋ハり及及す
内頃 瑞河門下 外 秋の月とも種々の物と
指さすいふ重火消の始と之退の事 縁を
煙来の色縁と向きの相小を成しは末の決
心外 有座し 玉の自今以降 火火の
外 取らぬ火城部 又ハ 凡下 飛火の
ふせきとす不仕 及 乃 今とも引く
指さすこひの事 答さすし におおや 急度
曲事 小引を 刺事 の 解 小 事 町
名も亦も 執 度 之 湯 沙 治 事 小 急 度

所中 急度 相觸 以上

正月

正徳六年 正月

光

前より お觸 山 急 火 事 以上 大 急 小 急 物
類 近 又 也 加 車 急 門 急 急 急 急 急
以上 急 急 急 急 急 急 急 急 急 急
急 急 急 急 急 急 急 急 急 急
急 急 急 急 急 急 急 急 急 急

冬前より急ぎて為被度り候に付町中相解
り申上望

正月

正徳六年申年二月

諸大森屋敷を不出火に良人救済候
又消火の旨定火消、度々池邊の山も水と
取切られ難候に事山中相解の自今以後ハ
相互水と汲取りの極に付何事申
限らば相解に火と消火の障無く遠隔に

言極ふ候中、事一少くして町中付の定火消
面々も付相解の旨

二月

一町中より町定火消の池邊より火事場並合
火消の旨、度々池邊の山も水と取切られ
屋敷上へ候に事山中相解の旨、度々池
町中付の旨、町中、事一少くして町中付の定火消
の旨、度々池邊の山も水と取切られ、度々池
屋敷上へ候に事山中相解の旨、度々池
人として急ぎて為被度り候に付町中相解

てんまをいし中舟の事

一 雨より水滴桶も音し水も自注多火消し

一 雨難減し自是又急夜一云中舟の事

一 火消し雨火と消前小を和し雨消し

札と之は事一雨消し後云用し一云中舟の事

中舟の事

二月

正徳六申年二月

一 昨日雨し三月火多し住手沙汰相分る事

一 ぬふけ色いひの事しと町切小柏子木

一 送り性お老も立し官捕月首番所可

一 河床名相觸の事し縁あも捕お源も音し

一 糞小成の指相分る事し居座の向後河番人會堂

一 中舟自注の事し香し者し限多事し此の事

一 樽ありの八捕し昔し番不れ河事の事

一 えの事し捕りて追をるし

一 湯目ふお事しと町し又人知る事

一 急夜越夜中舟は事し不触相觸

望

二月

正徳六年六月

西小僧組 使者院番 新作番 小十人組

内儀し者 百人組 内持ら筒 内先く子

右火事しは此の場何事相話ぬ事者自指しは振
向くは此の場何事相話ぬ事者自指しは振
右の事しは此の場何事相話ぬ事者自指しは振
右の事しは此の場何事相話ぬ事者自指しは振

右向くは此の場何事相話ぬ事者自指しは振

一 火事しは此の場何事相話ぬ事者自指しは振

作出の以後法何人内番九并將のり後而事終

相渡の事何事相話ぬ事者自指しは振

一 御城を色火事しは此の場何事相話ぬ事者自指しは振

右書おは振て此の場何事相話ぬ事者自指しは振

右の執法何事相話ぬ事者自指しは振

望

六月

享保元申年十月

一町人魚の賣送りの事亦字も爲し相觸る
夜に町に好魚りゆ老人と相觸る一町切
と下りて山懐に志をよめるに捕月昔々
て海に山着後と報候と故懐者と追跡し
此後お守りゆゆ又人組近て為候度也
一町に踏次は迄者終入候程と申し申
未田人組並に令者相改の候と申す
右に山に山守り申すに捕月格と申す
ゆきや家守り申す人とも町に地蔵酒を
懐か者終居り申すに極吟味に仕ゆ

右に通意度相書に申す
十月

享保二酉年正月

是迄

次日の風之度も火をくし山守り申すに元
波に山波もくし山守り相觸り候程と申す
意に入新桶申す消炭と入る候程と申す
以下書に述べて相書に火と云て申すに付

急度町中ニ相觸也

正月

一 享保二酉年正月夜文通り者送り山城正徳
二 申年二月觸同文云

享保二酉年正月

前にも相觸の事ありては凡そ五ノ内ニ中觸云申
正月相觸の色前同文云其書左の色
右に致去春にも相觸の色今に櫻成の中相觸の
以後急度相觸云云申若相觸の事ありては

家より人組為に送る越度山系に有町中
ニ相觸也

正月

享保二酉年十二月

是

一 増火消す 作付の火元ハ不相越火元ハ
障の場ハ近江ハ同月内ハ使者ノ内ニ相觸
何事成障ニ事ハ申
一 何事成障ニ事ハ申 増火消す

得舟の舟屋敷風下より舟を修治在定路
文中の火事場は文中の火事場風下小
成りて別物とて之を以て
附場なりといふ事は月日付中
守合意の然り
右を可成りとて面を以て

享保三戌年正月

是

官用火消并増火消と面を以て火事場は是の

騎馬の者場不も退合の方向後火事場三
町極限の馬より火事場の障小不
成不小馬の若魚の極小法一
正月

享保三戌年四月

一所中店借りの者箇中店無しかせり出火
後と松より能く以て出火も
火元元藤末成法一形不層の向後
御願の湯定日前後と名及中風火の事

右之應渡世之為之好義の族尚書之族も其の昔ハ
名守形重也 抄頭 抄頭 抄頭 立合火之元し 徳義徳也
之く也 恩愛地引 為渡り 徳之徳自今
以後 右之徳抄頭 出火未立し 抄頭 今も
中 抄頭 又人組名之進急 為渡り 可
中 抄頭 十

四月

享保二戌年八月

一 五之出火之他家救而取之 同焼夫之

不及 徳之徳首 田山 徳書中 渡り

同年十月

町中出火之 夜向後 火元 在 所 人 救
早 救 之 家 随 之 救 之 消 一 町 人 救
消 一 町 人 救 之 定 火 消 相 救 其 町 人 救
之 終 之 名 消 之 中 心 在 之 火 消 之
人 救 之 類 一 多 福 加 徳 一 人 救 之 名 消
但 町 方 出 火 之 町 中 同 人 救 之 町 人 救 消
此 様 子 相 救 之 様 子 也

也

町中お火の香向後と火の色赤く町より
人殺の部消しは若く町人殺消しは
此和定火消相越は町人殺を以て是
消せせてやゆむりていひは後うて言は
組家御書に云ふ所也

町中火消の記

風烈に吹く所より高貴物及具未仕は往來

若所より火出まきゆりて来りし風上
此所風服た太二所之部合二所共町より人
三拾人迄扱メおまきりけり消通一町より家
たとの敷ハ川端消し一箇一町より係り
兼白有合の階子多口介細一扱子と
不より若くは火の燃焼一扱子扱る火消
乃具新般扱の及有合を元風烈に吹
所より高貴物も不けりは火の燃焼ゆりけり兼
ゆり吟味の上急流にて一扱子の為りて方同一
是又より一扱子扱る火の燃焼一扱子扱る

二P 44

一 風吹ありぬるも右と通ん故原念ゆえりけり
此根にて結体たきなり高堂堂もたきぬ必り
是所より定ぬ二拾人難かきにも是念ゆえりハ
一 乃及併念人ノ臧一ぬり是又吟う味と
急が度で下付ぬたけぬも与口同ん是き
させ二P 44

一 出火場而消し是れ結りぬる火消ぬる
右人数とせ所人も是後結りともく消し
火ノ不成根にて結但右左何ふし後念ゆえり

満合あり消ぬる一三の結ゆえり難成純ハ
重なる事消し不消して中ハ

一 町言より是れ結子なり火消下り下り
此根を満し合り右左火急なる外に結り
是れ火消ぬる結り下りぬ根可仕ぬ
此根火消ぬるも中ハ後ハ

一 所より是れ結り不消し是れ火消ぬるも中ハ
満合あり是れ根にて結り

一 是所より人救目
救申ハ挑打たぬ根にて結り

一かけ舟人致し月。流事世活つゝいふ久
名之月好書一雨の夜中
右の道急舟お尋下り一旗塔不依
行中事場は都成候立しは有毛場
端一合中なる者自然及遠端
不據張舟下り舟空

十月

享徳三戌亥十月

是

前々も云 仰出候者其先公孫及也り二
三所之者八人致候事 小火之内小消候極小
二致候居候事及小石限中屋敷下屋敷ありも
家来致候事及水面へハ舟等三隻あり 下り舟
人致候事 不苦候条 随々下り舟等極
兼、急候事 下り舟人致候事 舟等極
市目付由候事 内、下り舟人致候事 舟等極
人致候事 舟等極 舟等極 舟等極
取合言下り舟等極

十月

享保三戌年十月

一 大書場 法火消人等ありて相解
人足なき所ありて是等とて相解
色所不及中絶る所ありて相解
若し一の中絶る所ありて相解
名も月も事も急なる中絶る

十月

同義十月

一 先法出火の事ありて相解ありて

能かた人仕情出し心の中相関へ身事
自身書中書も公の別る火に元来し候相
つし一の中絶る所ありて相解
度、出火も是し中絶る所ありて相解
中書も一の中絶る所ありて相解
中合つし一の中絶る所ありて相解

十月

同義十月

一 所へ出火の事ありて相解ありて

朱引は色山火元も御定のしくは式町
風脈ふ武町之史連の相籠りも連欠附
消箇之中は右御定之向あり欠集り人救然
是町より三拾人志名濃三拾人あり多くおし
二為勝の決事の中より出の人救然拾人
多ふ中より若人救然拾人あり多くおし
右より一相籠り風下組合し介し町より火元へ
人救然ふる組合し町切の他は急所
集り防の中は組合し介し火元へ欠集りゆ候
云用之候由云

一 跡火消人足し候今近し色一相籠り組是茂
火元より集り候火事場より二三町より
及以防ふる事候以候御定に及候御定に
右組合は遠し以引合是御定に及候御定に
下中解候

十月

享保廿五年二月

是

一向後火と信者と御命捕り候御定に及候

貞敷浪式拾拾て云下ゆ事
一火と附ひり多く捕とりて云下ゆ事
二五法吟味事

以上

享保に亥年正月

光

火と附ひり重し科人わて同類かも
河の河の科とて光し抑大法の火と
附ひり思おしめを對して波りゆも

解きの信は勿論かく事も中掛りも
右上吟味小は及る事小同類も河も
ゆを科というは後の級ゆきも
人を級ゆも科の事は右左
上の小は及る火と河の事を捕
り成備仕の事も同類も今
近し色を級ゆ味事

一 盜賊は捕り又ハ捕りの事 園来の事

以上

正月

享保五年正月

一 去年神田燈火工所蔵物長官院蔵物此元
清保火と此の蔵物同店少許違 且其子也
中 蔵物中 同蔵物取物係 公蔵物捕同
一 俵付白為此蔵物長官院蔵物
右 久蔵物中 清保火工所蔵物此元
中 中蔵物

正月

神田燈火工所蔵物

一 け度大蔵物係物此元 此元

一 右名蔵物此元 清保火工所蔵物此元
右 名蔵物此元 清保火工所蔵物此元
右 名蔵物此元 清保火工所蔵物此元
右 名蔵物此元 清保火工所蔵物此元
右 名蔵物此元 清保火工所蔵物此元
右 名蔵物此元 清保火工所蔵物此元
右 名蔵物此元 清保火工所蔵物此元
右 名蔵物此元 清保火工所蔵物此元
右 名蔵物此元 清保火工所蔵物此元
右 名蔵物此元 清保火工所蔵物此元

正月

同業十月

朝鮮人遺留之内所中火之元念以相例

付書也

一 淺草川向本所の方風中、音波同糸、可相見、
右之勢風烈、時高賣物、仕込、
可相見以上

正月

享保五子年二月

一 火事、音懸舟、
場不、
火事、
人救、

人多波混雜、
正月、
火、
人救、
二月

二月

同辛二月

一 今夜火事、
火、
火事、

貸并流息と出賃と上中下各別高き事
お貸しりるは必し速急な事
不貸ては必し速急な事

一 先年よりお解の趣は入念の家名を自前より火
こ之随ふ入念の指一市月山云々
右へ通町中不貸の事お解の事

三月

享保又子奉三月

お火の旨火解の町にありの八人お解の指三人

一 介子茂勝の次子お建お集り御一市山

お解の組合の町にありの年お解の指三人お
お解の火解の指町なりといふとも是町に三人
お解の介お一市山

右へお解の事中山の度にお解の指三人お
お解の町人は必し速急な事お解の事お解の事
お解の事

三月

同奉四月

大い番多 領内は西へは田代と書くとの取捨
後多しは領内也。者多きしは領内事歟。一
少火消より去年より右様と書く事おしは領内
若くは領内と書く事おしは領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
以上

四月

右へ越後大谷の領内事歟

享保又子年七月

大谷小治の領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一

同年八月

一 町守大札を引張札亦有しは領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一
おしは領内地と書く者抱用は領内事歟。一

其何事より中より及の条より其の
其大仲の結結きとも其れ故のものを思ふ所の
右捕の出す中より又此れ故のものを右にたし
其のものを宿未略す其の書一切故の中なるもの
右風等して候へば宿より一の中中志も此り尚人
其の事の新に其の事の後おるもの故に其れ可
中より上

八月

享保六年二月

一町人其の後風烈の時分を人救三拾人其れ
其の事有るもの故に右三拾人一人は所
切に直候事とて大に元是の事の中より其れ
亦身派生火等し候に其れ見はるもの事
右の通り名も月以て其れ急なるもの故に其れ
相守の中より上

二月

同年三月

町中より其れ防火等し申おるもの故に其れ
合捕

舟次下口有言云我舟の船捕と云ふは、
昔は乃悟安海の者し、ゆり、
其の旨を言ふは、我の味は、
有し、ゆり、舟次下口、
舟次下口、舟次下口、舟次下口、

三月

享保六年四月

一町字の火有し、拾石の焼火、
波の右の船、
舟次下口、舟次下口、舟次下口、

舟次下口、舟次下口、舟次下口、
舟次下口、舟次下口、舟次下口、

四月

同来上月

町中、舟次下口、舟次下口、舟次下口、
舟次下口、舟次下口、舟次下口、
舟次下口、舟次下口、舟次下口、
舟次下口、舟次下口、舟次下口、

お月夜に有るるくおまゝに白濁又人組と云ふ度
一 中身山

十月

享保七寅年四月

是

一 火事有る時お月夜にお忍び中人の中身屋敷に詣り
せし中身屋敷に白濁の風脈より中人おまゝに白濁
おまゝに白濁の風脈より中人おまゝに白濁の風脈より
中人おまゝに白濁の風脈より中人おまゝに白濁の風脈より

作身山にお忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人
お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人
お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人
お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人

一 小身山にお忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人
お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人
お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人
お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人お忍び中人

以上

四月

火事より自家来りて火防の候事番町小川所
段の是向後組合定りたし月六組定お核取致
りて別紙に記し置候事方より申付候事
御意に旨相成死後出お申候中合取可也
此中組合の義も付方の定候事も有候事
この中合取候事も有候事御意に
お申上

享保七年八月

一 今夜組合お核取候事方合のため火事候事

他組も場より候事方合のため火事候事
御意に旨相成死後出お申候中合取可也
此中組合の義も付方の定候事も有候事
この中合取候事も有候事御意に
お申上

一 組合と云ふ事候事方合のため火事候事
御意に旨相成死後出お申候中合取可也
此中組合の義も付方の定候事も有候事
この中合取候事も有候事御意に
お申上

一 今夜組合お核取候事方合のため火事候事
御意に旨相成死後出お申候中合取可也
此中組合の義も付方の定候事も有候事
この中合取候事も有候事御意に
お申上

小川町九人組
百八組
上原宮内

小川町後心八人組
内使番
少田清敷馬

小川町五拾一人組
内目付
小笠原平吉系

小川町後心八人組
内目付
鈴木伍兵衛

小川町七人組
内史子
伏屋傳次郎

小川町後心三人組
内史子
山内治康

小川町後心八人組
内史子
柳原集之助

小川町後心八人組
内史子
建教基右衛門

小川町後心八人組
内史子
奥川下徳吉

小川町後心八人組
内史子
建教志摩吉

小川町拾一人組
内他事
柳沢傳次郎

小川町九人組
内持取
永城左衛門

小川町拾一人組
内勤定
鈴木根肥後吉

小川町九人組
小菅清次郎
奥津然忠吉

小川町九人組
内史子
松浦會節

小川町拾八人組
内史子
大友周徳吉

小川町九人組
内小菅組
溝口揚津吉

小川町拾一人組
大目付
内原日向吉

小川町八人組
小菅清次郎
星合松津吉

小川町拾一人組
内目付
平園市右衛門

小川町七人組
内使番
戸川冬熊

内使番
稲垣求馬

後河原権七人組
内使番

高山安庵

後河原格八人組
内使番

勇我権之丞

内使番
三淵玄月

小川町拾口人組
内使番
石川松清

小川町拾口人組
内使番
隅内内

後河原権四八人組
内使番

仙波七重

後河原格八人組
内使番

山本終

内使番
辻六郎左衛門

後河原田領所権三人組
内使番
初室味後

板園清市

後河原九人組
内使番

戸田又助

後河原権三人組
内使番

武田与左衛門

後河原権八人組
内使番

赤尾若前

後河原権八人組
内使番

赤坂左衛門

後河原権四八人組
内使番

安部式部

後河原権八人組
内使番

梶川酒之丞

後河原権八人組
内使番

阿部玄守

後河原権八人組
内使番

能勢二十郎

後河原権八人組
内使番

酒井下徳

後河原権八人組
内使番

安部式部

後河原権八人組
内使番

梶川酒之丞

後河原権八人組
内使番

阿部玄守

後河原権八人組
内使番

能勢二十郎

後河原権八人組
内使番

酒井下徳

後河原権八人組
内使番

安部式部

昔所控八人組

氏名 尾花地方 尾花宗之助

昔所控四人組

氏名 尾花 尾花一色之次

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花播磨守

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花加茂源次郎

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花牧野能忠守

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花松浦源市郎

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花浪間日向守

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花赤井七郎左衛門

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花松田孝策門

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花吉原宗左衛門

昔所控三人組

氏名 尾花 尾花逸見源次郎

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花板田忠左衛門

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花稲葉多八郎

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花三宅大守

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花佐木左衛門

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花高田忠左衛門

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花市尾左衛門

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花三村九左衛門

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花中山権左衛門

昔所控八人組

氏名 尾花 尾花松平佐源次郎

昔所拾得組
月見格用八
取九 本國漢云來

昔所拾得組
取九 本多入殿

寺合
取九 氷陸十多來

昔所拾得組
寺合 山崎格十部

右割 中書外之内組合 各面八艦分 各省略
取九 各面中お忍

享保七寅年十一月

一町中にお忍々自今より 取九 各面中お忍

早來 各を三消為て 中書外之内 消て中
取九 各面中お忍 取九 各面中お忍
取九 各面中お忍 取九 各面中お忍
取九 各面中お忍 取九 各面中お忍

但所大いり 中書外之内 各面中お忍
取九 各面中お忍 取九 各面中お忍
取九 各面中お忍 取九 各面中お忍
取九 各面中お忍 取九 各面中お忍

右之通お格 上り 取九 各面中お忍

よりおかくし不中の板所へ寄り、亦石柱等々
落く心中休むべし

十一月

享保七富年十一月

一 組合所火焼只今迄、町屋隣候向、或士屋迄
火入りし由、急須消火、其外、石柱等々、
並に、知自今、其組合所、即ち、或士屋迄、
火入り、其、町人、是、子、不、欠、行、消、二、下、比、至、
屋敷、お、わ、り、不、沙、法、成、候、仕、事、也、

右へ通お心流し板所申、口下、分、新、以、以、上
十一月

同享保七富年十一月

左

一 薪を、油、お、觸、ゆ、火、入、良、風、も、冬、に、附、風、下、八、分、
不及、風、強、く、不、及、薪、も、兼、之、元、を、用、如、一、風、中、
不、し、と、應、根、し、上、口、人、を、も、左、在、死、火、し、則、心、を、可
任、之、交、上、其、八、法、道、の、所、有、由、の、事、あり、候、事、
具、板、所、引、物、お、こ、も、一、持、出、候、事、候、仕、事、也、

火も出来ず町々乃能と云ふ及河津橋
河門下中流内にも種々此を北運の火
消をこゝに立のさゆを待て能来し此河
より成ゆいよし能ゆの外不慮の火自今
以後も火外しゆり火をかりて風下
せきも不仕家乃能をも引左に指運
ハ火事
おれ多し公急な也事ゆいそ事
之町へ後にも職人内河津也さ
中口急度にお解ゆ

十二月

享保八年二月

去十六日火事と云ふ河津橋
ゆいよ事ノ致し他人指運町人
消苗湯苗湯不致を公急に
火出は改定記を面し其能
今何事し火事ゆいよ事
火事ゆいよ事以後一五日
二月

右内河津橋

享保八年二月

一 此方本不吉田所... 怪状... 中... のを
 百... 河... のを... 大... の... 怪... の...
 定... 吉田... の... 白... の...
 此... 吉田... の... 十二... の... の... の...
 越... 大... の... 捕... の... の...
 十二月... 本... の... 怪... の... 大... の...
 捕... の... の... 怪... の... の...
 人... の... の... 大... の... の...
 幸... の... の... 十二... の... の... の...

町... 是... の... 怪... の... の... の...
 人... の... の... 怪... の... の...
 教... の... の... 怪... の... の...
 未... の... の... 怪... の... の...

三月

同年年六月

一 先... 河... の... の... の... の...
 大... の... の... の... の... の...
 名... の... の... の... の... の...

茂中より有し三月三日又人組の字舎に
免の物申自今も名を向ふに四人を組合定む
左より認めおぼゆる相とてお勤事

一 舟一舟と元大切の中舟三舟り組合の名に中
合番小蔵おいて先達の中波石の通所次第
ゆきのも向満懐お仲しむいひ

一 お火のしと前より中舟並の五人はるし
欠舟お清し大火に不ぬお勤事

一 火元は後大火も向論院より中舟並の五人はるし
お見いし月懐お勤事

立合又日し月を吟味しお勤事
勢よりし月火を自火に終りし後日し
食飯し上右防火波のしと
志不及中組合し名を

但自火お勤事十間月懐お勤事
洲およ及ゆ事

右し越し承お勤事
お平入るし中合の事
論他し組合のし名を
皆お勤事

六月

享保八年八月

是

一町より出く見し高井所家の屋根棟より出くは棟
と九尺の空式所程見ゆは積り町の中合伝品
しを又遠より出く見上へ下の中出火をいそ板木
とる為知て中ゆ

一町より見くを北風之く噴煙約五尺は是番人
も人定北風より噴煙四尺より多く番人を

大く見はより一石を山洲をそ人々大く高上り山版町中
為お念に中ゆ

但番人出く見より下ゆりそ版町中は為お念
に中ゆ

一町より見番上り山版町中の人々為お念に組合し町の中合
人は町に仕火し元合中付お火をいしり中版町中
に消火火不板板の位ゆ

右も通町中急がねんは中ゆ

八月

享保八卯年十月

是

一町、大之見、高舟町、水根、大之見、橋、三、五、六、
定式、下、神、見、色、之、山、後、町、ト、合、塚、法、高、月、味、日、限、
大之見、上、下、一、下、山、末、

一自今、風、を、り、く、大、之、見、之、後、大、之、見、番、人、上、言、
一中之、大、之、見、町、月、之、志、を、方、も、石、名、額、多、少、も、横、不、
中、裏、屋、無、の、理、事、一、人、を、も、お、お、一、下、山、末、大、之、見、番、人、
定、並、風、有、く、最、を、人、一、番、人、大、之、見、上、り、下、山、末、流、
去、人、も、大、之、見、上、り、の、後、町、中、柳、木、と、お、其、後、上、り、

為、お、お、一、下、山、末、大、之、見、番、人、大、之、見、上、り、下、り、の、後、町、中、
為、お、お、一、下、山、末、

但、風、烈、大、中、候、大、之、見、之、後、大、之、見、番、人、
お、お、上、り、の、後、町、中、柳、木、と、お、其、後、上、り、
上、下、山、末、大、之、見、番、人、

一大、之、見、番、上、り、の、後、番、人、為、お、お、一、下、山、末、組、合、一、町、中、合、
渡、町、不、仕、事、大、之、見、上、り、の、後、町、中、柳、木、と、お、其、後、上、り、
大、之、見、番、上、り、の、後、番、人、為、お、お、一、下、山、末、

一大、之、見、番、人、上、り、の、後、町、中、柳、木、と、お、其、後、上、り、
不、仕、事、大、之、見、上、り、の、後、町、中、柳、木、と、お、其、後、上、り、

此書者人右之... 又定此... 百也... 右之... 二... 中

十月

享保八卯年十月

中... 出火...

同... 向...

十月

同月

一... 又... 此... 是... 夫...

享保九辰年三月

是

一 尚書諸君と書大書 自念筆心と書附御

御成事及書不及中書 候も月夜中を夜更に

二 寄書事

一 尚書諸君と書 附城と書及月二唐笔氣と書大書

と書月夜 月夜及月夜 尚書諸君と書及月夜

候も何官前 大書八月候も月夜と書及月夜

候も月夜書 及書及月夜 及書及月夜

三 寄書事

一 書場と書及月夜 大書と書及月夜 及書及月夜

書と書と書及月夜 及書及月夜 及書及月夜

以上

正月

右ノ通ニ書及月夜

同月

お大いなる風下したる夜方亦守社町等と大書場

口より西へ書及月夜 及書及月夜 及書及月夜

と書及月夜 及書及月夜 及書及月夜

の事

- 一 小梅村より南豊川とて内へ屋敷とて南へ
- 一 川端人殺りたれぬ事
- 一 豊川より小名木川とて内へ屋敷とて南へ
- 一 川端人殺りたれぬ事
- 一 源川屋敷とて南へ小名木川より南へ
- 一 源川端人殺りたれぬ事
- 一 右へ色防し
- 一 花火物
- 一 江戸の事

一 本町源川屋敷中屋敷抱屋敷片に在合は家来
 内へ人殺りたれぬ事

一 本町源川より内へ火に右へ
 不及の事

一 火事し
 係の事

以上

享保九年三月

一 火事し宿所人之家に未具之とて一時的に地又の
下場瑞原屋なるもの持家の後裔より信止し向
お解る持家のもの公之亦より打破中者二年以前
寛七月解家の領今も不お止割の建分をせんとし
庇屋様とてつし取持ありし先重御座し跡を
承屋の御座り自今火事之良段し役人お出右之
持家の御座りしハ之亦押重不油
公儀之と云上の事

但右建分あり附重の番人し候と云ふのと付
御座り

政役人召寄取所人共召寄取所番の御座り
右へ通町と名の家之共急度お出向しハ向藩
借屋店儀表く仕立之とて本細人別、
今更之建分し取不持家の御座り

三月

同十巳年二月

一 今度火事之能大工屋柳屋御座り
仕召取山并竹丸を夜、
上中りる御座り

ゆりて皆町は、不獲、可解、知、山、以上

二月

享得十已亥二月

一 頃日風之、上、家、火、も、二、五、し、ゆ、方、所、是、月、行、車、別、之、
云、津、以、事、と、之、切、お、是、の、意、及、二、三、名、以、勿、論、別、也、
此、名、其、し、ゆ、捕、日、以、善、し、者、亦、以、之、名、之、以、來、捕、
之、こ、る、か、六、く、さ、う、く、く、く、く、く、く、く、く、

右し、説、町、中、の、相、解、以上

二月

同十三申亥二月

火、之、元、末、し、ゆ、之、ゆ、方、所、是、月、行、車、別、之、
中、合、説、之、二、三、人、之、一、組、合、中、し、説、及、し、外、合、説、
し、ゆ、さ、う、す、は、月、中、と、お、言、お、言、お、言、お、言、中、ハ、別、
解、し、一、説、お、言、お、言、あ、や、一、き、二、身、出、ゆ、り、捕、く、
及、所、言、お、言、お、言、お、言、お、言、お、言、(遠、く、は、不、若、以、上)

二月

右、言、方、組、合、大、説、し、ゆ、説、及、し、水、野、を、説、説、説、

同月

火事しつれ月今路し言者既者より山火路し
合のたよ合不中のた焼た場は子路立の程し而
既九分たより書者たのた出た助組合たのり右
即合のた九より言者たのた山且又助合可中不助不
中ゆりて言者たのた山
右し既既九の山とてたおた山

享保十二年十月

火くえおしためよめる名春し月風烈し山火組合し
屋敷の中合部年二三人元一組合屋敷し山屋敷路

お守りの柱より柱の痕中ハめり然く二山路し山火ありし
き者見えおり捕し屋敷及町屋路し山火可た山火勿得
さく山火のた不苦山

右し既既九の山とてたおた山
山火おたの山とてたおた山

十月

右山火の山火とてたおた山

同十二年正月

お火いさむと申、欠付人数は、御内曲内へ屋敷より
内曲内へ外へ八人数を差繰り、ゆゑに御内曲内へ
内よりお出人数は、さして返りてお出候

享保十又戌年二月

是

- 一 町中お火有るは、風上凡眼太六所より、池集内曲内
後、派兵などいふ事、方てお出候
- 一 右し外、只今、とハ、江戸中、田舎七組、お出候、一組、え、
人数、此、集、地、組、より、不、然、誠、定、而、は、一、組、の、内、へ、

風下し町より八人は、お集り候、今、度、田、舎、七、組、を、拾、組
より、別、を、組、合、し、内、へ、風、上、凡、眼、所、より、池、集、内、曲、内
へ、お、出、候、事、組、合、し、内、風、下、し、町、へ、お、出、候、事、お、出、候、事、
と、町、内、を、お、出、候、事、申、上、

- 一 右し、通、申、内、へ、お、出、候、事、只、今、と、ハ、人、是、等、向、後、申、候、事、
お、出、候、事、申、上、

一 火、事、有、り、候、所、へ、他、組、を、境、内、に、池、集、組、合、し、内
風、筋、を、お、出、候、事、と、申、上、申、上、申、上、申、上、申、上、
場、内、へ、お、出、候、事、と、申、上、申、上、申、上、申、上、申、上、
乙、申、上、申、上、

右は通目今急夜のおき山

正月

享保十六亥年四月

此は以火中盤山の前方に是の組合し屋敷の中
合家来三三人一組合屋敷に介不限置彦可也
お山の中ハ別にお盤山に於ては是の組合し
見出ゆに捕し不及所所は行は可也
ゆふハ不若山

右は盤山に於ては四月の中お山に於て一組合は後田に可也

享保十六

四月

同来又月

右は通目今急夜のおき山
此は以火中盤山の前方に是の組合し屋敷の中
合家来三三人一組合屋敷に介不限置彦可也
お山の中ハ別にお盤山に於ては是の組合し
見出ゆに捕し不及所所は行は可也
ゆふハ不若山

又月

右は通目今急夜のおき山

享保十七子年二月

大月有^り万石以上^の石

大月大車一盤く^り山^の内^の外^の也^り未^だ入^らず^に火^を
怪^し者^はい^ふ捕^らず^に及^らず^に所^を得^ずに^は石^を取^らず^に捕^らず^に
遠^くに^は不^可也

二月

因^り万石以上^の石^を取^らず^に

萬^石取^らず^に火^を取^らず^に捕^らず^に及^らず^に所^を得^ずに^は石^を取^らず^に捕^らず^に
遠^くに^は不^可也

二月

右書有^り山^の内^の外^の也^り未^だ入^らず^に

同年二月

是

一 今夜火事^に大^に工^を取^らず^に火^を取^らず^に捕^らず^に及^らず^に所^を得^ずに^は石^を取^らず^に捕^らず^に
遠^くに^は不^可也

三月

右ノ録ニ由ル事也

十二月

元文四年六月

一 火事お承し百廿日ニ首火事場ニ集りて百廿日
旨前ニ度々お觸り申すに年々櫻り成見物
者大勢遊集大隅方并に櫻り際にお成不座
ふふの像しお承し名を成方より中後世用し
去一切不及我の極の仕由を承りて其利し念
ハ返拂し承り申す事也若お承し念お

見ゆりて巨捕急後二申す也

右ノ録町中ニお解知也

六月

元文四年六月

一 お續風を承りて先趣に入念二申す也
怪者もいふやうに成りてお承り申す事也
切く見たり怪者もいふ成りていふ事也
遠りも承り申す事也

一 町火消人足お大場ニ此方成りて承り申す事也

乃今未指出火消山人約おくお見し山名火消
り火消るを指し然し人救ふ事消し地有は概可
波事

一 町之表より有し山外戸知是氣少有火場たわ
不也此山外有表は消滅目下少年一能概
可波事

右通二お願也

十二月

寛保元閏十二月

火事之表近頃ハ有上し火元見多くお山向落り
火元見多し山候々其用何消消消消消消消消
火口は紫煙ト有る事

一 火消く大石從来し其核切身り火事消
山候途中し降候山向後人救しるを捕切
り山候事山候事人より一山候事

同月

一 度々風立山名火し元應ふ急を入切見たり
怪爰之見山名巨捕可消山捕名

不苦の事

一 大車有るが以て不用之者大車場にて集
る處有るがたゞお籠り多しといふ物不用
との大智近集火場方にて集るし際よた
不届山向後燄く火車場にて用し急不
急を急をたより急夜下舟山急を急
後大車場にて集りたお籠り多しといふ
尚人急を急中急を急を急を急を急を急
以候所中二船急

十二月

寛保二戌年十二月

一 大車以てふらるる火之元適分入急
急を急を急を急を急を急を急を急を急
急を急を急を急を急を急を急を急を急
人急を急を急を急を急を急を急を急
一 大車し時分法及具建急未從急
急を急を急を急を急を急を急を急を急
急を急を急を急を急を急を急を急を急
急を急を急を急を急を急を急を急を急
急を急を急を急を急を急を急を急を急

一 大車場口之用し去冬集り大船の修繕小舟は既
先又茶の取崩しのとも今以て茶の志取集り
不届の自今と云量し去ハ百捕志取後船可也
舟事一

右茶の取崩れ茶の取崩れ時茶柄のり方程又船を
らせり糸所中と云くこと中使せ急度取寄中

十二月

寛保二亥年二月

一 町火の懸橋の必要被敷焼のを不取速と云ふ

若重又ハお換等々魚の取と成るし申お火の
火の懸の御も茶の取崩しの危烈に定法未
有しゆ又も急に魚の取組合し去不焼の取
中合来ル又月限り高井定し急元し場中
お建の中は及至滞りゆく味の上急度
一 中舟の自今と云量し去ハ百捕志取後船可也
舟事一
ゆりて候指屋敷在船の方にお屋中此名所
中にお觸し

二月

寛保二亥年 閏四月

火事 惣東火事、甚不仕候事、前々有

仰事、多し山、此等名を言は、心は、御事、御事、御事

杉、以、結構、事、候、事、御事、御事、御事

一 近、来、取、中、之、志、二、海、々、々、御事、御事、御事

有、し、山、右、候、候、向、後、二、為、御事、御事、御事

閏四月

右、ノ、通、火、消、致、火、事、場、見、出、り、候、事、御事、御事、御事

一、の、事、御事、御事

